



第1号

発行所
公益財団法人
全国学校農場協会

東京都渋谷区
円山町2-20

GAP教育導入で 試される農業高校の 総合農業力

公益財団法人
全国学校農場協会

理事長 日置 司明



東日本大震災から6年、広島土砂災害から3年、関東北部・東北豪雨災害から2年、熊本地震から1年、この7月には九州北部豪雨災害と毎年大災害に見舞われ、多数の犠牲者と甚大な被害をもたらしました。同時に多くの農産物の被害が発生し地域によっては農地が消滅したところもあります。

ここに被災された方々に対し心よりお悔やみとお見舞い申し上げますとともに一日も早いご心痛の回復と地域の復興を願っております。また、地球温暖化に伴

う気候変動が起因と考えられる災害は地球的規模で大しており、これからも予断を許さない状況にあると言えます。会員の皆さんも地区でも日頃から、行政・関係諸機関・住民及びボランティア団体等が一体となつて連携のあり方や被害を出さない具体的な対策を話し合つておく必要があると思います。

さて、全国高等学校農場協会は、昭和27年に結成され今年で66年目を迎えます。この間、一貫して農業及び農業教育の振興を協会の理念とし、農業教育施設・整備をはじめ農業教育環境全般の整備と充実、農業後継者の育成、農業教員の待遇改善を主柱として取り組むとともに、併せて農業教育の啓蒙と研究活動を活発に推進し、我が国の農業の発展に大きく貢献して参りました。なかでも農業教員は特殊な勤務形態を有するとして支給される「産業教育手当法」の法制化へ向けての取り組みは、当時の会員一人一人が真に心血を注ぎ

組織を挙げて成し得た成果であることを、決して忘れることなく、農業教員としての職責を果たして頂きたいと願っています。

今年4月に開催された常任理事会において、ある委員の先生から「会員の代替わりも進み、協会設立の意義・経緯や組織の変革、諸事業や活動内容の推移、先達会員の苦勞等を知る会員が少なくなっている。是非このような協会の変遷がわかる資料を提供してほしい。」との要望がなされました。現在、総務局会議で検討しているところですが、具体的な内容がまとまり次第、要望に応えて参りたいと思います。

当農場協会のような分野のすべての職域を以って構成会員と成し、同じ理念の下に等しく活動している組織はほかにはありません。

これからも公益財団法人全国学校農場協会・全国高等学校農場協会はともに設立の意義を継承しつつ「会員の為の組織」として、また「団結力堅固な全国組織」としてあり続ける責務を持つた組織でなければならぬと思っております。そのためにも、本部からの情報だけに頼らず、各校の農場会議、都道府県総会、支部大会等あらゆる機会を活用し、全国理事はもとより農業のベテラン教員から農場協会の内容を説明して頂き、当農場協会の設立の意義と役割について、なお一層の理解の深化を図って頂きたいと思っております。言うまでもなく社会や産業構造の変化に伴って農業や農業教育を取り巻く状況も農場協会設立当時とは大きく変わっております。しかし、温故知新と言われるようにいつの時代にあつても古きに学ぶことは大切です。過去を研究し理解し、そこから新しい時代に対応した新しい発想を創出することが今より求められていると思っております。

最近の我が国の農業情勢を見ても農業従事者の高齢化や耕作放棄地の増大、先行き不透明なTPP問題など依然として厳しい状況にあります。しかしここに来

て、新規就農者が増加していること、しかも農家の後継者ではなく、他分野からの参入者であるとのことです。このことは農業の大切さが次第に国民に理解され始めた証であると考えます。これらの新規参入者の定着を図る為には、地域と行政が一体となって支援することが何より必要であろうと思います。

日本はすでに人口減少社会への移行が始まっています。農業経営者の育成が農業関係高校の恒久的な課題となつていますが、最近の農業事情を考えると、農業関連産業とともに、農業の多面的価値を財産として地域に広げ根付かせることも、地域社会を活性化する重要な要素となつていると言えます。そういったところからも産業としての農業を下支えする優秀な人材を育成し輩出することも農業高校の持つ重要な使命であると思います。

また、3年後にはスポーツの祭典といわれる東京オリンピック2020が開催

されます。このオリンピックで提供される食品素材はすべてグローバルGAP(世界農業生産工程管理)認証の農作物(食品)であることが決定されています。グローバルGAPとはヨーロッパを主に、世界基準で農作物(食品)の安全を確保し、よりよい農業生産を実現する取り組みで持続的可能性に配慮した農作物の調達基準です。調達基準は、食材の安全確保、周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動の確保、生産業者の安全確保の三点から成り立っています。生産者の顔が見え、消費者の不安を取り除くための世界基準です。このGAP以外にもHACCP、JAS、GIなどの認証制度もあり、これら世界的に統一された規格、認証によって農産物(食品)が評価され、国際競争上優位になり、輸出の拡大が期待されています。このように、グローバルGAP等の導入なくして、農業の発展はあり得ない状況であり、この基盤を確立す

ることが必至になっていいます。

農業教育においても、「GAP教育の導入」が緊急課題として検討されており遠からずその具体的な方策が示されることが予想されます。この「GAP教育の導入」は、それぞれの農業高校の持つ総合的な農業実践力が問われ検証される機会となることは必定です。将来、我が国の農業を担う生徒にこれらの認証制度に対応できる教育を施し社会に輩出することも農業高校の果たす重要な役割であると思います。

農業教育に携わっている会員の皆さんには、GAP、HACCP等の教育について十分に学び、研修を積むことにより、農業の発展につながる教育を推進することが期待されています。

公益財団法人全国学校農場協会も、将来の農業教育の方向性を見据え、事業活動のますますの充実を図って参りますので、今後とも会員の先生方の御協力をお願いいたします。

平成29年度
公益財団法人全国学校農場協会
調査研究項目・広報活動計画
調査研究(研究局)

- (ア) 第66回全国大会並びに研究協議会
- 講演、研究協議、文部科学省への指導講評等における課題調査研究
- (イ) 各支部大会会指導、援助
- (ウ) 第54回農業教育研究協議会における課題調査研究
- (エ) 支部並びに各都道府県の研究部会組織の確立
- 広報活動
- (ア) 全国大会・各支部大会に関する報告
- (イ) ニュース速報の発行
- (ウ) 全国会員相互の意見交換
- (エ) ホームページでの情報交換


農業学習ノート
トウモロコシ(スイートコーン)

公益財団法人全国学校農場協会 編集・発行

農業学習ノート・トウモロコシ(スイートコーン) 平成29年12月から

科目「農業と環境」副読本として利用を!

価格 270円予定 詳細はHPで紹介




東京農業大学
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE
〒156-8502 東京都目黒区板倉1-1-1
www.modul.ac.jp

農学部 応用生物科学部 生命科学部
地域環境科学部 国際食料情報学部 生物産学学部

2018年4月 新たに2学科が新設

農学部 生物資源開発学科
農業の基盤となる「生物多様性」をキーワードに、持続可能な社会を実現する。

デザイン農学科
生き物や農畜産物に眠る「機能性」。それらを利用して豊かな未来を設計する。